

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
		○	○		○		○	○	○		○	○		

企業の概要

企業・団体名	株式会社アグレックス	本社所在地	東京都
業種	情報通信業	総従業員数	3,844名
事業概要	BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)、SS(ソフトウェアソリューション)、SI(システムインテグレーション)		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	テレワーク勤務規程、テレワーク規程運用ガイドライン
テレワーク担当部署	企画本部 人事部
テレワーク対象者	一般社員
実施者数	2,130名
平均実施日数	月8回以上12回未満程度(概ね週2~3回)

テレワークの導入・拡大の経緯

- 2018年4月1日より導入。
- きっかけは働き方改革だが、当初はテレワークを実施できる回数は限られていた。
- 拡大の大きなきっかけはコロナ対策で、導入当初に設けられていた「テレワークと時間年休の併用不可」等の制限がなくなり、徐々に「オンラインで会議・面談するのが当たり前」という風土に変わってきた。

テレワークの概要・特徴

- 社内いずれかの事業所・顧客常駐先勤務を「オフィスワーク」、個人の居室・社外の施設での勤務を「テレワーク」と定義している。
- 「テレワーク」を更に自宅での勤務を「在宅勤務」と、社外のサテライトオフィスなどでの勤務を「モバイル勤務」に分けて活用している。
- 半日単位や時間単位の年次有給休暇との組み合わせも可能としており、2021年10月からは、トライアル期間を経て勤務時間振替制度を導入。(所定労働時間を満たせば、在宅勤務中に育児・介護が理由で勤務中断した分を、勤務開始前後に振替えることが可能)
- スライドワーク(時差勤務制度)もテレワーク勤務(在宅勤務・モバイル勤務)と組み合わせが可能なため、柔軟な働き方が更に進んだ。

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

- 「会社にいるのが当たり前」ではなくなり、半分以上の社員が在宅勤務を実施するようになり、オフィスを改装して個室や自由に利用できる席を増やした。ソーシャルディスタンスを保てる安心感と、フリーアドレスにより日々好きな空間で働けるといいうリフレッシュ効果があった。
- 会社全体で在宅勤務を積極的に推進することにより、実施している社員にとっては通勤の煩わしさが減り、通勤時間分のプライベート時間も増え、おかげで家族との時間も増え、プライベートが充実するようになった。
- テレワークを積極的に勧める企業として、採用活動に効果があった。
- コロナ禍の感染予防対策として、社員の安心安全を担保することができている。